ISSN　1340-2609

兵庫県立歴史博物館紀要

塵界

第　33　号

二階坊俊源―鎌倉時代の書写山圓教寺僧の栄光と陰―　神戸　佳文　1

「廃城令」直前期における全国の城郭調査をめぐって
―「陸軍省絵図」との関係も含めて―　竹内　信　11

播磨国福本藩関係ふすま下張り文書について　濵室かの子
吉原　大志　45

【活動報告】
姫路市網干区・不徹寺の下張り文書と現地における資料展示　濵室かの子　55

【収蔵資料目録】
入江コレクションの子ども雑誌（大正期）　香川　雅信　92(21)

【展覧会記録】
特別企画展「唱歌！西洋音楽がやってきた　ー明治の音楽と社会ー」
山田加奈子　102(11)

【展覧会記録】
特別企画展「広告と近代のくらし」　吉原　大志　112(1)

2022(令和４)年３月

兵庫県立歴史博物館

【展覧会記録】

特別企画展
「唱歌！西洋音楽がやってきた －明治の音楽と社会－」

山　田　加奈子

1　はじめに

兵庫県立歴史博物館では、特別企画展「唱歌！西洋音楽がやってきた －明治の音楽と社会－」（以下、唱歌展と記す）を筆者の山田が主担当として企画、準備を行い、令和3年7月17日（土）から9月5日（日）にかけて44日間開催した（写真1）。(註1) 平成23年に宝塚歌劇団をとりあげた特別展「宝塚歌劇 ～咲きつづけて一世紀～」を行い、舞台芸術をテーマとしたことはあったが、当館では初の音楽のみをテーマとする展覧会であった。

博物館展示は主に視覚情報で構成されるため、唱歌展のような音楽を扱う展覧会では従来とは異なる工夫が必要であった。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、当初の企画内容からいろいろと変更せざるを得なくなった展覧会であった。

この報告では、新型コロナウイルス感染症の本展への影響、展示内容、音楽をテーマとする展示での工夫を記してから、アンケート調査結果について考察したい。

2　新型コロナウイルスと唱歌展開催までの経緯

唱歌展は、令和2年7月11日（土）から8月30日（日）を会期として、兵庫県立歴史博物館の令和2年度夏季展覧会として企画された。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大のため、令和3年度に開催が延期となった。当館では臨時休館を令和2年3月4日から行い、一時再開館したが、5月末まで臨時休館を継続した。そのため、春季の展覧会である特別展「驚異と怪異－モンスターたちは告げる－」の会期が2ヶ月ほど後ろにずれて6月23日（火）から8月16日（日）となり、夏の展覧会を行う期間を確保できなくなったためである。

会期変更のほか、当初の企画からいくつかの点で変更せざるを得なくなった。主な変更点は次の2点である。

・他機関からの資料借用中止
・コンサートやギャラリートークなどのイベントの中止

前者については、他機関で調査などを行うことが難しくなったためである。館蔵資料のみの展示となったため、展示でとりあげることができるテーマが少なくなり展示の規模が縮小した。今回、とりあげたテーマは、関連する資料があった明治期の学校唱歌、軍歌、鉄道唱歌、幕末の軍楽などである。明治期の軍楽や幕末から明治期のキリスト教音楽は関連する館蔵資料がないためにほとんど取り扱うことができなかった。また、館蔵資料のみでは説明不足となるところは、他機関が所蔵する資料の写真パネルを作成しそれを使用した。

後者に関しては、他人との濃厚接触が避けられないギャラリートーク、ワークショップを中止することにした。

とくにギャラリートークは、コロナ禍以前に開催された展覧会では毎回実施しており、展覧会担当者がじかに鑑賞者に接して展示について話すことができる貴重な機会であった。そこで、ギャラリートークに代わる情報発信手段としてオンライン解説動画制作という試みを行うことにした。(註2)

コンサートについては、展覧会で紹介した唱歌の演奏を提供できる機会ではあるが、当館のコンサート会場であるロビーでは、演奏中にマスクを着用できない歌手と聴衆との距離に不安があり、また今後のウイルス感染状況が予想できないため、これも開催を見送ることとした。

企画したイベントのうち実施したのは、館長トークイベントとれきはくアカデミーの2つである。(註3)

館長トークイベントは、展覧会に関わる内容の

研究を行っている専門家と当館館長藪田貫が、展覧会に関して対談を行うもので、れきはくアカデミーは展覧会担当学芸員の講演である。

どちらのイベントも、「新型コロナウイルス感染症に係る兵庫県対処方針」（以下、「兵庫県対処方針」と記す）(註4) でのイベント開催目安である「屋内：5,000人以下、かつ定員の半分以下の参加人数」を守り、会場となる当館地階ホールにおける従来の定員108人の半分にあたる50人を定員とし、事前申し込み制とした。

さて、以上のような変更を行い、前述のように会期は令和3年7月17日（土）から9月5日（日）として開催することとなった。

しかし、令和3年になっても、新型コロナウイルス感染の勢いは止まらず、4月25日から第3回目の緊急事態宣言が発令された。当館は特別企画展「広告と近代のくらし」の開催中であったが、「兵庫県対処方針」(註5) に則り再び臨時休館を行うことになった。

5月11日までであった緊急事態宣言は期間延長が決定されたが、兵庫県は感染防止対策を実施した上で社会教育施設を開館する方針(註6)を立てた。当館も5月12日から開館した。「広告と近代のくらし」展は再オープンとなり、6月20日に終了予定であった会期は7月4日まで延長された。

6月20日には緊急事態宣言が終了し、その次の日から本展のオープンとなる6日前に当たる7月11日までまん延防止等重点措置が適用された。このような慌ただしい中で、唱歌展は7月17日に開幕を迎えた。

開催期間中、7月には収束を見せた新型コロナウイルスの感染は8月に入り急拡大し、8月20日に第4回目の緊急事態宣言が発令された。兵庫県は8月17日に改定された「兵庫県対処方針」(註7) でも、県の社会教育施設は感染防止対策を実施した上で開館するという方針となったため、本展開催中の当館も開館を続けた。結局、第4回目の緊急事態宣言は9月30日まで続き、そのような中、唱歌展は9月5日に終了した。

関連イベントについては、緊急事態宣言前である7月25日のれきはくアカデミーは何事もなく実施できた。館長トークイベントは、緊急事態宣言期間中の8月21日を開催日としていたが、「兵庫県対処方針」のイベント開催制限目安「収容定員100%以内」「人数上限5,000人」(註8) に従い、十分に感染対策を施した上で実施することになり、無事に終えることができた。

以上、令和2年度から3年度にかけての新型コロナウイルス感染状況に影響を受けた本展の開催までの経緯を記した。当館の新型コロナウイルス感染防止対策及び経過については、当館WEBサイトの「新型コロナウイルス等の感染症の拡大防止のための取り組みについて（まとめ）」のページをご覧いただきたい。(註9)

3　展示内容

本展は、唱歌を中心として明治期の日本における西洋音楽の伝来とその浸透をテーマとし、導入部として幕末の軍楽についてもとりあげた展覧会である。第1部は資料展示、第2部は体験コーナーとした。展示構成は次のとおりである。

第1部 西洋音楽がやって来た！

日本人が西洋音楽に出会った幕末から、唱歌が身近なものになった明治の終わり頃まで、明治日本における西洋音楽の流れとその影響を資料展示で見ていった（写真2、5）。

1　幕末ドラムマーチ

幕末の日本人と西洋音楽の出会いを、軍楽をとおして紹介した。当館の入江コレクションに鼓笛譜などの幕末の軍楽に関する資料が数点あり、それらを中心に展示を展開した。

2　西洋音楽ことはじめ　唱歌の誕生

明治になり、本格的に西洋音楽を取り入れて、学校教科としての唱歌が成立する過程を追う内容で、日本初の唱歌教科書である「小学唱歌集」及びその影響を受け出版された唱歌集をとりあげた。

また、唱歌の成立した時期はいわゆる鹿鳴館時代でもあり、鹿鳴館などでの唱歌演奏を描いた浮世絵もパネルを含めて多く展示した。

3　子どもの言葉の唱歌

口語体の歌詞、ピョンコ節と言われる親しみやすいリズムという変化が唱歌にあらわれて、子どもたちに浸透していく様子を紹介した。特に、子どもの日常語で歌詞を記した『教科適用　幼年唱歌』やいわゆる文部省唱歌などの唱歌集をメインに展示した。

4　軍歌と鉄道唱歌

日清、日露戦争が起こり、広く歌われるようになった軍歌と、軍歌と同じ曲調の鉄道唱歌をとりあげ、『地理教育 鉄道唱歌』や軍歌「戦友」のシリーズなど、軍歌集・唱歌集の冊子を多く紹介した。

5　音楽を楽しむ

ハイカラな音楽隊の演奏や西洋音楽由来の楽器など、人々がさまざまに西洋音楽を楽しむようになった様子を紹介した。音楽隊の活躍を描いた絵画資料やヴァイオリンなどの楽器人気を伝える楽譜、日本で生まれた自動演奏装置である紙腔琴などを展示した。

6　唱歌から流行歌・歌劇へ

唱歌が学校にとどまらず、その曲調をもつ歌が多くの人々に親しまれ、大正期に起こった宝塚少女歌劇や日本初の流行歌といわれる「カチューシャの唄」につながった様相を紹介して展覧会のまとめとした。

公演のプログラムや絵はがき、演じられた唱歌の楽譜などを展示した。

第2部 唱歌の世界を体験しよう！

デジタル化したレコード音源のコーナーと第1部で展示している明治の浮世絵のパネル前での撮影スポットを設置し、明治期の唱歌に親しんでもらう体験コーナーとした。

1　明治の唱歌をきいてみよう！

明治期以降にレコードに録音された唱歌や軍歌をデジタル化し、それをリピート再生した（写真6、7）。音源を収録しているレコードも一部展示した。

2　鹿鳴館気分を味わおう！（フォトスポット）

鹿鳴館時代のドレスを着た女性たちが唱歌を演奏する様子を描いた浮世絵（「梅園唱歌図」）を人物が等身大となるまで拡大して、その前で撮影ができるようにした（写真8）。

本展の展示資料は、主なテーマが唱歌や軍歌であるために、唱歌集や軍歌集が多かった。そのため、楽譜や歌詞が印刷された冊子が続く単調な展示となることが予想された。そこで、幕末から明治期の浮世絵などの音楽に関係する絵画資料や唱歌・軍歌の作者の肖像写真、人形・楽器などの立体資料の展示を随所に配置し、鑑賞者を飽きさせない工夫を行った。ただ、絵画資料に関しては当館の収蔵資料にはそれほど多くないため、他機関所蔵資料のパネルが多くなり、また肖像写真もまたパネルであったので、パネルが多いとがっかりした鑑賞者もいたようである。(註10)

このように、本展では唱歌集・軍歌集を中心に展示し、絵画資料などで各テーマを視覚的に楽しめるような工夫を行ったが、紹介した音楽がどのようなものであったかは、その音楽を知っている人、展示している楽譜を読むことができる人以外には伝わりにくい。そこで、本展では、3種類の音源を展示室で提供(註11)することにした。

4　音源提供の試み

唱歌展で提供した音源は、幕末の軍楽を継承する山国隊軍楽保存会の行進演奏の映像、館蔵レコードをデジタル化したもの、展示資料に収録されている楽譜のMIDI音源の3種類である。

山国隊の映像は、山国隊軍楽保存会から提供していただいた平成25年10月11日に京都市右京区京北の山国地区で行われた山国護国神社と山国神社の還幸祭の映像から行進演奏の部分を抜き出したものである。展覧会の導入として、展示室の最初にテレビを設置しリピート再生を行った。

デジタル化したレコード音源は、明治期やその後に収録された当館所蔵のレコードの中から、展示でとりあげている唱歌や軍歌が収録されているものを選び、それらをデジタル化したものである。第2部の「明治の唱歌をきいてみよう！」コーナー（写真6、7）でリピート演奏を行った。(註12) 第1部の資料展示の観覧を終えた後に、唱歌・軍歌をゆっくり楽しんでもらうことを意図した。曲を自由に選んで鑑賞したい人もいたと思われるが、ウイルス感染予防のため、不特定多数の人が触ることができないように、音源再生に使用したデジタルオーディオプレーヤーをアクリルで覆った。

山国隊の映像とレコード音源はどちらも開館中はリピートで再生しているため、音が重ならないようにそれぞれ展示会場内の端の方に設置した。

また、見るだけでは唱歌や軍歌のメロディがわからない人も多いと思われる唱歌集や軍歌集の展示では、唱歌集・軍歌集記載の楽譜からMIDI音源を制作した。

唱歌・軍歌のMIDI音源の演奏には、「ポケット学芸員」というスマートフォンアプリを使用した。(註13) このアプリは早稲田システム開発株式会

社のクラウド型収蔵品データベース「I.B.MUSEUM SaaS」の機能の1つで、鑑賞者は無料で利用できる。展示資料の画像、解説文、音声解説[註14]を提供でき、全国で100館以上の博物館・美術館で利用されている。

唱歌展では、「ポケット学芸員」収録の唱歌・軍歌の番号パネルを、その歌が掲載されている唱歌集・軍歌集の脇に置き、展示資料を見ながらそれらのメロディを聞くことができるようにした(写真3、4)。[註15]

問題点としては、鑑賞者のスマートフォンを利用したサービスであるため、スマートフォンにアプリをダウンロードする際の通信費が鑑賞者負担となること、ダウンロード時に必要なパスワードを鑑賞者が忘れている場合にはダウンロードできずにアプリの利用ができないことがあげられる。

通信費については、唱歌展会場に無料Wi-Fiを設置し対応したが、パスワードについては博物館側では解決できずに、「ポケット学芸員」の利用をあきらめた事例がいくつか見られた。

また、このアプリはスマートフォンのスピーカーを通して音を出すので、スマートフォンを電話として使用するときのように耳に当てれば、小さい音量でも聞き取ることができる。しかし、本展では使用方法の周知が足らず、アプリ利用者の多くは耳に当てずにスマートフォンの音量を上げて使用していた。本展では、本アプリから出る音への鑑賞者からの不満は幸いにも確認できなかったが、アプリの使用方法の周知は今後の課題としたい。

5　展覧会への反応 アンケートから

当館では、展覧会開催の時にはいつも鑑賞者を対象としたアンケート調査を実施している。唱歌展のアンケート調査[註16]では、44日間の会期中に入館者3,093人から389枚の回答[註17]を得た。ここでは、本展の内容に関する問いの回答をとりあげ、本展に対する鑑賞者の反応を見ていきたい。

アンケートで展示内容に関する設問は、展覧会への感想を①大変良かった、②良かった、③普通、④やや不満、⑤不満の5択で回答する問い、展覧会感想や博物館への意見と気に入った展示物を自由記述する問いの3つ[註18]である。

5択の設問では、①大変良かった及び②良かったの回答を合わせると87.5%[註19]となり、おおむね満足を得たとも読み取れるが、唱歌展の前に開催された3つの展覧会のアンケート集計[註20]と比較してみると、唱歌展以外の展覧会は、①と②の回答は90%を超えている。細かくみると、ほかの展覧会は①の回答が5割であるのに対し、唱歌展では40%台である。

唱歌展のアンケート回答数はほかの3つの展覧会より多い。[註21]アンケートに回答した鑑賞者は、アンケートに回答しなかった人より展覧会への関心が高いと考えられるならば、高い関心を持って本展を見に来た人は3つの展覧会より多かったが、そのような鑑賞者の評価は伸び悩んだと言えるのではないか。

次に、展覧会についての感想や意見、気に入った展示物[註22]を検討し、最後に評価が伸び悩んだ理由を考えたい。

展覧会の感想・意見は242件あり、好意的なものは約180件[註23]、要望や不満は約50件[註24]である。[註25]

展示の内容については、音源についての回答を除き、資料展示の感想で高評価であるものは144件[註26]寄せられた。一方、展示への要望、不満は33件[註27]で、印象的な感想をあげると、ボリューム不足[註28]、パネル展示が多く興ざめ[註29]、子ども向けにしてほしい・子どもには難しい[註30]、唱歌の政治的な役割について踏み込み不足[註31]、楽器展示を増やしてほしい[註32]という回答があった。

展示がボリューム不足という点に関しては、先に記したように他機関所蔵資料を展示することが難しい状況であったためである。その点を補うよう写真パネルの展示を増やしたが、パネルが多いと不満が寄せられることとなった。

また、子ども向けではないという指摘に関しては夏休み期間中の開催[註33]であるため、子ども向けの解説パネルの制作も考えたが、展示室にパネルを増やす余地がなく断念した。[註34]

唱歌の政治的役割の説明不足に関しては、先述のとおり夏休み期間で子どもが多く来館することを考え、展示ではあえて踏み込まなかった。

楽器展示に関しては、当館の資料には楽器が少ないため、館蔵資料のみで構成した唱歌展では楽器展示はほとんどできなかった。他機関所蔵の楽器を借用して展示するなど、今後、音楽をテーマとする展覧会を行う場合の課題としたい。

次に、音楽再生・楽譜についての感想に注目したい。MIDI 音源については15件[註35]、レコードについては3件[註36]、好意的な感想が寄せられた。特に MIDI 音源については、具体的な展示内容に対する好意的な記述としては最も件数が多い。このことは後で触れる。音楽再生・楽譜への要望としては、もっと音源をききたい[註37]、展示している楽器の音をききたい、弾きたい[註38]、楽譜をもっと見たい[註39]など約10件あった。

音源に関しては、レコード音源は再生時間約30分で、全曲をきいた鑑賞者は多くないのではないかと思われ、これ以上増やす必要がないと考える。MIDI 音源については、唱歌の歴史で重要な唱歌集の歌、兵庫県に関わりのある歌のメロディを制作したが、もっといろいろと増やしてもよかったかもしれない。

楽器に関しては、保存のため展示した楽器を演奏することは難しいが、音をききたいという要望に何らかの形で応えられるよう検討したい。

楽譜についての不満は、書籍や雑誌の展示でも同じことが言える。回答[註40]にもあるとおり、デジタル技術などを活用して要望に応える工夫を行いたい。

次に、お気に入りの展示物[註41]について、件数が多い「オルガン」(82件)、「レコード・明治の唱歌をきいてみよう」(54件)、「鉄道唱歌」(34件)の3件をとりあげて検討したい。

オルガンについては、会場で最初に目に入る場所に陳列され、実物展示の中では最大のものであったため、鑑賞者の記憶に残りやすかったと考える。また、近年でも小学校の授業で使われているオルガンに親しみを感じた人も多かったのだろう。

レコード・明治の唱歌をきいてみようについては、レコード音源演奏の高評価がうかがえる。また、ポケット学芸員も10件[註42]と回答が多い。先述のように展覧会感想ではポケット学芸員、つまり MIDI 音源は具体的な展示としては好意的な記述が最も多かった。あわせて考えると、レコード音源、MIDI 音源のどちらも楽しんでもらえたと思われる。

鉄道唱歌については、今でも鉄道唱歌関連の書籍が発行されるほどに人気が高いことに加え、現在の鉄道趣味の広がりを考えれば、鉄道唱歌を知っている人が多かったのではないかと考えられる。また、鉄道唱歌のメロディの MIDI 音源は3曲と多めに用意したことも高評価の理由だろうか。

以上、アンケート調査における展示内容に関する回答について考察した。このように見てくると、先に触れた5択の設問で①と②が当館のほかの展覧会より少なかったのは、展覧会感想の自由記述の検討から、展示の規模と内容の掘り下げ不足、楽器演奏などの音楽要素の不足が、唱歌に関心が高い鑑賞者には物足りなかったことが理由として考えられるのではないだろうか。

また、お気に入りの展示物の記述からはオルガンや鉄道唱歌などの鑑賞者にとって既知の要素がある資料の展示、展示会場での音源提供が高評価であることがうかがえた。今後の展示の資料選定において参考にしたい考察結果である。

6　おわりに

明治期の日本は、近代国家として海外列強に対抗するために大きく変化し、その中で日本人の身体感覚も変わらざるをえなかった。音楽に関わる身体感覚も日本が文明国家であることを西洋諸国に認めてもらおうとする動きの中で変化した。例えば、音階の変化はその1例で、近世までの日本の伝統音楽はファとシがない5音階であったが、近代国家の構成員である国民となるための学校教育で西洋音楽の7音階を身につけ、今やドレミファソラシドは日本人の身体に染みついている。

このような現在の日本人の身体感覚を形づくってきた過程に興味を持ったことが唱歌展を企画したきっかけである。しかし、本展ではこの問題意識は前面に出さなかった。展示を子どもも楽しめるものにしたかったからである。その思いはアンケート調査の結果を見ると実現したとは言いがたい。これらの要望や不満はひとえに担当者の力不足のためである。今後の糧とし、よりよい展示を目指したい。

以上、唱歌展の報告としてウイルス感染症の開催への影響、音楽をテーマとする展示での工夫、アンケート調査結果の考察などを記した。最後に、本展のために来館されたお客様、本展開催にご協力いただいた関係者に感謝を申し上げたい。

【註】

1　唱歌展チラシダウンロードURL
https://rekihaku.pref.hyogo.lg.jp/wp-content/uploads/2021/05/seiyo-ongaku-chirashi.pdf

2　兵庫県立歴史博物館YouTubeチャンネル展示解説動画URL
https://www.youtube.com/playlist?list=PLrJKsY_piZFsZQ-YpWbacUnSlrlmzGmXI

3　イベントの詳細については、註1チラシ参照。

4　「新型コロナウイルス感染症に係る兵庫県対処方針」（令和2年6月18日改定）
https://web.pref.hyogo.lg.jp/governor/documents/g_kaiken20200618_04.pdf

5　「新型コロナウイルス感染症に係る兵庫県対処方針」（令和3年4月23日改定）
https://web.pref.hyogo.lg.jp/governor/documents/g_kaiken2021042317_01.pdf

6　「緊急事態措置延長に伴う学校及び社会教育施設等の対応」（令和3年5月7日）
https://web.pref.hyogo.lg.jp/governor/documents/g_kaiken20210507_09.pdf

7　「新型コロナウイルス感染症に係る兵庫県対処方針」（令和3年8月17日改定）
https://web.pref.hyogo.lg.jp/governor/documents/g_kaiken20210817_16.pdf

8　註7「兵庫県対処方針」8（1）「大声での歓声・声援等がないことを前提としうるもの」の目安

9　兵庫県立歴史博物館サイト「新型コロナウイルス等の感染症の拡大防止のための取り組みについて（まとめ）」ページURL
https://rekihaku.pref.hyogo.lg.jp/topics/6364/

10　註17（10）67

11　音楽演奏も展覧会に組み込めば展示の一部であるが、本稿では視覚によって情報を得ることができる資料の陳列に限定して「展示」という言葉を使用する。

12　レコード音源演奏曲リスト
（左からNo.、曲名、作詞者、作曲者・原曲、出典、演奏者、レコードレーベル）

⑴　兎と亀　石原和三郎　納所弁次郎『幼年唱歌』二編上巻　北村季晴・北村はつ子・前田久八　COLUMBIA PHONOGRAPH CO.

⑵　鳩ぽっぽ　東くめ　滝廉太郎『幼稚園唱歌』北村季晴・北村はつ子・前田久八　COLUMBIA PHONOGRAPH CO.

⑶　桃太郎　田辺友三郎　納所弁次郎『幼年唱歌』初編上巻　北村季晴・北村はつ子・前田久八　COLUMBIA PHONOGRAPH CO.

⑷　梅　石原和三郎　西洋曲『幼年唱歌』初編下巻　納所弁次郎・納所文子　KASUGA RECORD

⑸　お雛様　田辺友三郎　田村虎蔵『幼年唱歌』初編下巻　納所弁次郎・納所文子　KASUGA RECORD

⑹　大寒小寒　石原和三郎　田村虎蔵『幼年唱歌』初編中巻　納所弁次郎・納所文子　KASUGA RECORD

⑺　敵は幾万　山田美妙　小山作之助　歌詞『新体詩選』曲『国民唱歌集』納所弁次郎・納所文子　KASUGA RECORD

⑻　お月様　石原和三郎　納所弁次郎『幼年唱歌』初編中巻　永井潔・野口文子・松本幸次　TOGO RECORD

⑼　金太郎　石原和三郎　田村虎蔵『幼年唱歌』初編上巻　永井潔・野口文子・松本幸次　TOGO RECORD

⑽　桃太郎　文部省唱歌　岡野貞一『尋常小学唱歌』第1学年用　城南万里子　国歌レコード

⑾　大江山　石原和三郎　田村虎蔵『幼年唱歌』二編上巻　田中君子　タイヘイレコード

⑿　花咲爺　石原和三郎　田村虎蔵『幼年唱歌』初編下巻　服部悦子・川合二三四　タイヘイレコード

⒀　浦島太郎　文部省唱歌　三宅延齢『尋常小学唱歌』第2学年用　服部悦子・川合二三四　タイヘイレコード

⒁　戦友　真下飛泉　三善和気『学校及家庭用言文一致叙事唱歌』第三編　帝国会少年合唱隊　タカシマヤレコード

⒂　勇敢なる水兵　佐佐木信綱　奥好義『大捷軍歌』第三編　帝国会少年合唱隊　タカシマヤレコード

⒃　ドンブラコ　北村季晴　北村季晴『オトギ歌劇　ドンブラコ』桃太郎レコード

13　スマートフォンアプリ「ポケット学芸員」サイトURL
https://welcome.mapps.ne.jp/pocket/

14　「ポケット学芸員」の主な使用法は展示資料の音声解説の提供であり、本展のように音楽演奏に使用したことは珍しい試みであったようで、早稲田システム開発株式会社のニュースレターなどで取り上げられた。
「ポケット学芸員ニュース」URL
http://www.waseda.co.jp/wp-content/uploads/2021/08/%E3%83%9D%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88%E5%AD%A6%E8%8A%B8%E5%93%A1%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B955%E3%80%80%E5%85%B5%E5%BA%AB%E7%9C%8C%E7%AB%8B%E6%AD%B4%E5%8F%B2%E5%8D%9A%E7%89%A9%E9%A4%A8.pdf
『導入400館・特別編集レポート　博物館クラウド10年　ミュージアムITの現在地』ニュースリリースURL
http://www.waseda.co.jp/news-release/special-reports-from-400-museums

15　「ポケット学芸員」曲リスト（左からNo.、資料名称、作詞者、作曲者、曲名）

⑴　『小学唱歌集』野村秋足・稲垣千頴　ドイツ伝承曲　蝶々

⑵　『明治唱歌』第三集　大和田建樹　奥好義　少女の望

⑶　『教科適用　幼年唱歌』初編　石原和三郎　田村虎蔵　金太郎

⑷　パネル『幼稚園唱歌』東くめ　瀧廉太郎　鳩ぽっぽ

⑸　『尋常小学唱歌』第四学年用　高野辰之　岡野貞一　春の小川

⑹　『幼年唱歌』第一集　吉丸一昌　中田章　蛍狩

⑺　『小学校適用言文一致叙事唱歌』真下飛泉　三善和気　戦友

⑻　『地理教育鉄道唱歌』第一集　大和田建樹　多梅稚　鉄道唱歌

⑼　『山陽線唱歌　汽車』大和田建樹　田村虎蔵　山陽線唱歌　汽車

⑽　『阪鶴鉄道唱歌』荻野哲太郎　荻野哲太郎　阪鶴鉄道唱歌

⑾『海事教育 航海唱歌』下巻 大和田建樹 納所弁次郎 航海唱歌

⑿『国民教育 忠勇唱歌』大和田建樹 牛銀子 四十七士

16 アンケートの設問は次のとおり

⑴ 性別①男性②女性

⑵ 年齢 学生①小学生②中学生③高校生
④大学生・専門学生
一般⑤10代⑥20代⑦30代⑧40代⑨50代⑩60代
⑪70代⑫80代以上

⑶ お住まい 兵庫県内①姫路市②神戸市
③その他（具体的に 市・郡）
兵庫県外④（ 都・道・府・県）

⑷ 来館されるのは何回目ですか。 回目

⑸ 来館の目的は何ですか。
①展覧会②常設展③博物館での行事に参加
④姫路城観覧に合わせて⑤動物園観覧に合わせて
⑥その他（ ）

⑹ 特別企画展「唱歌！西洋音楽がやって来た－明治の音楽と社会－」をどのようにお知りになりましたか。
①ポスター（掲示場所）
ⓐ山陽電車ⓑ JR ⓒバスⓓ自治会掲示板
ⓔほかの博物館・美術館ⓕ学校ⓖ公民館
ⓗ図書館ⓘ病院・医療機関
ⓙその他（ ）
②新聞で③雑誌で④テレビ・ラジオで⑤チラシで
⑥来館して⑦当館ホームページを見て⑧メルマガ
⑨フェイスブック⑩その他（ ）

⑺ 特別企画展「唱歌！西洋音楽がやって来た－明治の音楽と社会－」はいかがでしたか。
①大変良かった②良かった③普通④やや不満⑤不満

⑻ 今回の特別企画展でお気に入りの展示物をお書きください。

⑼ 今後の博物館運営の参考にするため、受付対応等についてお聞かせください。
①大変良かった②良かった③普通④やや不満⑤不満

⑽ 今回の特別企画展の感想や、今後ご覧になりたい展覧会等、博物館へのご意見をお書きください。

17 アンケート回答は次のとおり。集計は当館スタッフ椋野裕子が行った。

⑴ 性別
①男性 138人 35.5%
②女性 243人 62.5%
③その他（未記入）8人 2.1%

⑵ 年齢
①小学生 29人 7.6%
②中校生 6人 1.6%
③高校生 11人 2.9%
④大学生・専門学生 22人 5.7%
⑤10代 1人 0.3%
⑥20代 25人 6.5%
⑦30代 45人 11.7%
⑧40代 63人 16.4%
⑨50代 71人 18.5%
⑩60代 57人 14.9%
⑪70代 39人 10.2%
⑫80代以上 14人 3.7%

⑶-1) お住まい
①姫路市内 159 人 41.0%
②神戸市 59人 15.2%
③その他県内 133人 34.3%
④県外 37人 9.5%

⑶-2) お住まい
③中播磨（姫路市以外）7人 5.5%
④西播磨 12人 9.4%
⑤東播磨 61人 47.7%
⑥北播磨 12人 9.4%
⑦阪神（神戸市以外）29人 22.7%
⑧但馬 6人 4.7%
⑨丹波 1人 0.8%
⑩淡路 0人 0.0%

⑷ 来館回数
①1回 175人 45.0%
②2 ～ 5回 115人 29.6%
③6 ～ 10回 18人 4.6%
④11回以上 81人 20.8%

⑸ 来館目的
①展覧会 341人 85.0%
②常設展 19人 4.7%
③博物館を見に来た 14人 3.5%
④姫路城観覧に合わせて 5人 1.2%
⑤動物園観覧に合わせて 1人 0.2%
⑥その他 21人 5.2%

⑹-1) 情報獲得手段
①ポスター 243人 48.6%
②新聞 55人 11.0%
③雑誌 1人 0.2%
④テレビ・ラジオ 1人 0.2%
⑤チラシ 67人 13.4%
⑥来館して 28人 5.6%
⑦ホームページ 62人 12.4%
⑧メルマガ 1人 0.2%
⑨フェイスブック 6人 1.2%
⑩その他 36人 7.2%

⑹-2) 情報獲得手段
ポスター（掲示場所）
⑪ a 山陽電車 38人 15.1%
⑫ b ＪＲ 16人 6.3%
⑬ c バス 7人 2.8%
⑭ d 自治会掲示板 32人 12.7%
⑮ e 他の博物館・美術館 48人 19.0%
⑯ f 学校 37人 14.7%
⑰ g 公民館 15人 6.0%
⑱ h 図書館 16人 6.3%
⑲ i 病院 3人 1.2%
⑳ j その他 40人 15.9%

⑺ 展覧会感想
①大変良かった 154人 40.0%
②良かった 183人 47.5%
③普通 42人 10.9%
④やや不満 5人 1.3%

⑤不満 1人 0.3%

⑻ お気に入りの展示物

1 オルガン 82件
2 レコード・明治の唱歌をきいてみよう 54件
3 鉄道唱歌 34件
4 双六 22件
5 どれもよかった 20件
6 フォトスポット（梅園唱歌図）20件
7 無師独奏 紙腔琴 19件
8 楽譜 16件
9 ポケット学芸員 10件
10 唱歌集 6件
11 八甲田山ジオラマ 6件
12 幕末ドラムマーチ 5件
13 軍歌 5件
14 帝国劇場・ドンブラコ 4件
15 昔の教科書 4件
16 滝廉太郎 3件
17 手風琴 3件
18 山国隊映像 3件
19 ちょうちょ 2件
20 東くめ 2件
21 吹風琴 2件
22 姫路城 2件
23 銀笛 2件
24 絵 2件
25 地理を紹介した唱歌・土地の唱歌 2件
26 音楽の教科書に出てくる人 1件
27 明治の音楽テープ（デモ）1件
28 ふつうの唱歌の陳列 1件
29 みつこしタイムス 1件
30 おもちゃの補修 1件
31 音楽を楽しむ 1件
32 小学唱歌図解 1件
33 ピョンコ節 1件
34 鉄道路線図 件
35 露営の夢 1件
36 叙事唱歌 1件
37 帝国憲法唱歌 1件
38 兵庫県下等小学学科表 1件
39 チャリネ双六 1件
40 水の器 1件
41 ワルツ 1件
42 金剛石 1件
43 カチューシャの唄 絵葉書 1件
44 山国隊 1件
45 ラジオ 1件
46 地図 1件
47 祭事 1件
48 宝塚 1件
49 台本 1件

⑼ 受付対応

①大変良かった 159 人 42.4%
②良かった 157 人 41.9%
③普通 52人 13.9%
④やや不満 5人 1.3%
⑤不満 2人 0.5%

⑽ 回答のうち、展覧会感想のみ

1 歴史がわかって良かった、良い勉強になった 参考になった 61件
2 良かった おもしろかった 楽しかった 45件
3 興味深かった 感心した 感動した 懐かしかった 18件
4 アプリで曲を聴けたのがよかった 15件
5 見応えがあった 展示物の充実ぶりがすばらしい 満足した 7件
6 もっとボリュームがあればよかった 5件
7 またやってほしい 4件
8 もっと詳しく知りたかった 4件
9 オリジナルステッカーがうれしかった 子どもと楽しく選んだ 4件
10 すばらしかった 3件
11 また来たい 3件
12 レコードを実際に聴けたのがよかった 聴き入った 2件
13 紙腔琴、手風琴、吹風琴の実際の音が聞きたかった 2件
14 楽器展示をもっと増やしてほしい 2件
15 昭和初期の唱歌も展示してほしかった 2件
16 解説パネルが比較的みやすかった 2件
17 トークイベントに参加したかった 2件
18 オルガンを弾いてみたかった 2件
19 楽器や楽譜の中が見たかった 2件
20 オリジナルステッカーはデフォルメしていないものが欲しいからアレンジは必要ない デフォルメするな 1件
21 オリジナルステッカーを現代キャラにすべきではない 当時のものに魅かれて来ているのに残念 1件
22 西洋音楽の導入を急いだ忠君愛国イデオロギーの格好のツールだったことを示す必要がある 幾分それがなぞられていたが、踏み込み不足 1件
23 唱歌と軍歌の間に童謡と呼ばれる一群の曲、山田耕作の作品などがありそうに思う 1件
24 全ての栄誉を手にしても子のいない高野に溜飲を下げた 天は二物を与えずだ 1件
25 ヨナ抜きは現代の曲での例があればよかった（米津玄師のパプリカなど）1件
26 双六を各時代のトピックスを関連付けているのは歴博らしいと思った 1件
27 毎回高齢者向けの企画が多い 若者が楽しめるような内容にすべき 1件
28 もう少し子供が楽しめるしかけがあると職場の人にも紹介しやすい 1件
29 キャラクターのトリオが可愛くて笑ってしまった グッズが欲しい 1件
30 明治時代の頃の歌を聴いて隣で歌っているみたいでよかった 1件
31 YouTube の解説みました かわいくて長さがちょうどよかった 1件
32 鹿鳴館をもっと詳しく知りたい ジオラマがあれば

うれしい 1件
33　西洋音楽の導入について当時の伝習者の苦闘が知りたかった 1件
34　明治にヴァイオリンが流行っていたと知りうれしくなった 1件
35　字が多すぎ　おおまかで良いので言葉での説明の方が良い 1件
36　展示品が不鮮明なのが惜しい　拡大するなどしてほしい 1件
37　高野・岡野のゴールデンコンビの浸透ぶりにお手上げ 1件
38　図録とまではいかないがパンフレットを作ってほしい 1件
39　フォトスポットの人物が立体的ならもっと楽しめた 1件
40　時間がそのころの時代に戻ったような気分でした 1件
41　アプリの№6の音がシにフラットがついていない 1件
42　東京でなく姫路で開催されたことがすばらしい 1件
43　最終日に来たのが悪いが、シールがほしかった 1件
44　今まで体験したことのない新しい発想だった 1件
45　デジタルとかでもいいので楽譜が全部見たい 1件
46　祖母の時代の音楽にふれあえて嬉しかった 1件
47　音楽そのものを再現した方がわかりやすい 1件
48　パネル以外撮影OKなのがありがたかった 1件
49　ビデオの祭りをフューチャーしてほしい 1件
50　立体物（現物）がもっとあればよかった 1件
51　立場として学術的にとは確かにそうだ 1件
52　チンドン屋があればもっと楽しかった 1件
53　住吉駅がつくられた時の歌がききたい 1件
54　当時にタイムスリップしたくなった 1件
55　ポスターが美しく興味を持って来た 1件
56　フリガナがふってあるのがよかった 1件
57　もう少し音源がきけたらよかった 1件
58　撮影可／不可がわかりにくかった 1件
59　料金がリーズナブルでよかった 1件
60　貴重な資料が見られてよかった 1件
61　軍歌の展示がわかりにくかった 1件
62　現代の唱歌の有様がほしかった 1件
63　知らない人がたくさん出てきた 1件
64　まとまっていて見やすかった 1件
65　フリガナが漢字とずれていた 1件
66　もっと映像があればよかった 1件
67　パネル展示が多く興ざめした 1件
68　昭和の唱歌も知りたくなった 1件
69　明治の時代をかいまみた 1件
70　最後の音源の音が小さい 1件
71　八甲田山に違和感あり 1件
72　書物の中が見たかった 1件
73　昔の音楽に癒された 1件
74　音楽が好きになった 1件
75　子供には難しい 1件
76　面白くなかった 1件

18　註16⑺⑻⑽
19　註17⑺
20　唱歌展の前に当館で開催した展覧会のアンケート回答結果は次のとおり。（展覧会名の後の（）内は開催日数および入館者数）

展覧会感想	2021年4-6月 特別企画展「広告と近代のくらし」（48日間 2,910人）		2021年1-3月 特別企画展「絵そらごとの楽しみ」（44日間 5,320人）		2020年10-11月 特別展「女たちのひょうご」（45日間 7,343人）	
①大変良かった	142人	56.3%	102人	50.7%	92人	55.8%
②良かった	103人	40.9%	89人	44.3%	63人	38.2%
③普通	6人	2.4%	10人	5.0%	9人	5.5%
④やや不満	1人	0.4%	0人	0.0%	0人	0.0%
⑤不満	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	0.6%
感想　合計	252人		201人		165人	

21　註17⑺ 感想合計385人
22　註17⑻⑽
23　註17⑽1～5、7、9～12、16、29～31、34、40、42、44、46、48、54～56、59、60、64、68、69、73、74
24　註17⑽6、8、13～15、17～22、25、27、28、32、33、35、36、38、39、41、43、45、47、49、50、52、53、57、58、61、62、65～67、70～72、75、76
25　註17(10)23、24、26、37、51、63の6件はどちらにあてはまるか判断できなかった。
26　註17⑽1、2、3、5、7、10、11、44、60、64
27　註17⑽6、8、14、15、22、25、27、28、32、33、39、45、47、49、50、52、61、62、66、67、70、71、75、76
28　註17⑽6
29　註17⑽67
30　註17⑽27、28、75
31　註17⑽22
32　註17⑽14
33　註17⑵では回答者の内、小学生は7.6%
34　子ども向けパネルのために展覧会用のキャラクターを用意していた。このキャラクターは解説動画で活用した。（註２参照）
35　註17⑽4
36　註17⑽12、30
37　註17⑽57
38　註17⑽13、18
39　註17⑽19、45、72
40　註17⑽45
41　註17⑻
42　註17⑻9

写真１　会場入口

写真２　第１部「西洋音楽がやって来た！」第１会場

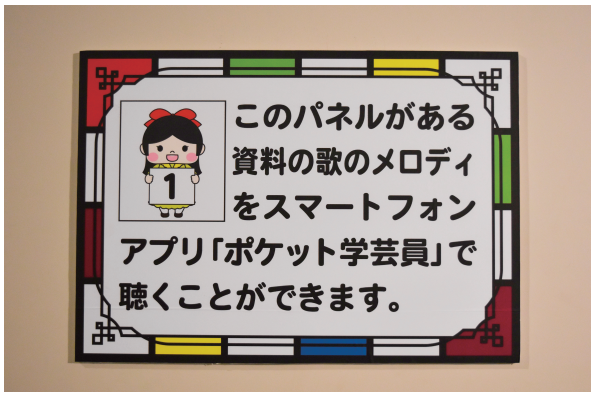

写真３　「ポケット学芸員」説明パネル

写真４　「ポケット学芸員」曲番号パネル設置状況

写真５　第１部「西洋音楽がやって来た！」第２会場

写真６　「明治の唱歌をきいてみよう！」コーナー

写真７　「明治の唱歌をきいてみよう！」デジタルオーディオプレーヤーとスピーカー

写真８　「鹿鳴館気分を味わおう！」コーナー

執筆者紹介（掲載順）

神戸佳文（当館学芸員・社会教育推進専門員）

竹内　信（当館学芸員）

濵室かの子（元当館県政推進員）

吉原大志（当館学芸員・主任）

香川雅信（当館学芸員・学芸課長）

山田加奈子（当館学芸員・主査）

編集後記

兵庫県立歴史博物館紀要『塵界』三三号をお届けします。本号は、当館の活動をさまざまな側面から紹介できる内容となりました。

冒頭の二つの論考は、県内の文化財の調査を出発点として、歴史上の人物や出来事について、新たな観点から光を当てています。続く下張り文書をめぐる二つの報告は、地域の資料を収集・保管、調査・研究し、その成果を紹介する試みとして意義深いものです。また感染症流行下に開催された二つの展覧会の報告は、未曾有の天災への当館の対応を記録するとともに、新たに取り組んだ展示手法や事業とそれらの課題を紹介しています。さらに収蔵資料目録は、展覧会報告でも述べられる「自館の所蔵資料への再評価」に欠かせない、長年に渡るコレクション整理作業の成果の一端といえるでしょう。

当館は令和三年九月より大規模改修に伴う長期休館に入りましたが、「〝ひょうご五国〟歴史文化キャラバン」を開催し、県内各地を巡回します。今後とも、当館の活動にご注目いただけますと幸いです。

（編集担当　山口奈々絵・竹内信）

兵庫県立歴史博物館紀要
塵界　第三三号

編集　兵庫県立歴史博物館
印刷　合名会社　柳生印刷所
発行　令和四年三月二五日

Printed in Japan©2022

03 教Ⓣ1－020 A4